



令和2年度 実施事業

公益目的事業報告書



新阿蘇大橋 ※注

令和3年4月



一般社団法人
九州地域づくり協会
Kyushu Regional Management Service Association

笑顔をつなぐ地域づくり

一般社団法人九州地域づくり協会（前身は社団法人九州建設弘済会）は、昭和40年の設立以来56年にわたり、河川や道路を舞台とした九州各地のボランティア活動などの地域活性化支援や社会資本整備に関わる広報活動に幅広く取り組んで参りました。

その中であって、社会資本整備に対する国民のニーズが多様化する状況を踏まえ、平成15年からは、若手研究者の育成等を兼ねた研究等助成事業、また平成17年度からは、当協会の創立40周年を記念して土木遺産発掘調査に取り組む等、多様なニーズに応じて事業内容を充実させ今日に至っています。

さらに近年では、平成28年4月熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨、令和2年7月豪雨などの九州地方における大災害に対し、被災自治体や災害ボラ

ンティアへの支援等へも積極的に取り組んでいます。

平成25年4月に一般社団法人へ移行するにあたり、内閣府に「公益目的支出計画」を移行認可申請書の一つとして提出し、公益目的財産額の確定を内閣総理大臣より通知を受け、「公益目的支出計画」が確定しました。

この「公益目的支出計画」では、平成24年度までに実施してきた公益事業（収益を伴わない事業）を公益目的事業として位置付けし、あらためて社会貢献を続けています。

本報告書では、令和2年度に実施した公益目的事業について、九州各地の地域づくりや環境美化に活躍されている方々の活動をご紹介します。

笑顔をつなぐ九州の地域づくりの参考となれば幸いです。

令和3年4月



●公益目的事業の募集及び運営について

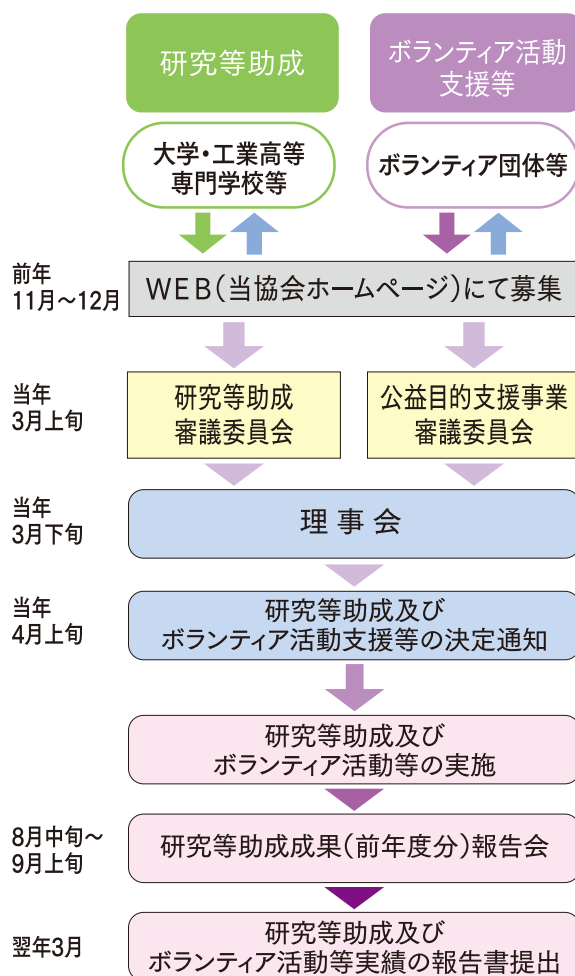
当協会では、公益目的事業として、①社会資本整備に関する広報活動事業、②建設事業の推進及び普及のための調査研究事業、③地域活性化等支援事業、④防災活動等支援事業の4つを継続実施しています。

この内、これまで一般公募を行ってきた研究等助成事業は、外部有識者から構成される「研究等助成審議委員会」を設け、幅広い意見を反映した手続きを行っています。

一方、ボランティア活動等の支援事業は、多くの件数を一旦「公益目的事業運営会議」で調整し、理事会へ諮っていました。

しかし、より客観性を有した効果ある支援を継続するため、今般これを見直し、一定のボランティア活動内容等に対して外部有識者を加えた「公益目的支援事業審議委員会」を設け、幅広い意見を反映した手続きへ変更しました。

今回、令和3年3月9日に初めての当委員会が開催され、令和3年度支援事業について審議が行われました。



令和2年度公益目的支援事業審議委員会(令和3年3月9日)



公益目的事業について

実施額合計：112.6(百万円)

1 社会資本整備に関する 広報活動事業

実施額：21.3(百万円)



【事業の概要】

国土開発の発展及び地域社会の繁栄に寄与することを目的として、国及び地方公共団体と連携を図りながら国土交通行政、社会資本整備に関する広報・啓発活動、講習会等を通じて、一般市民の社会資本に関する理解を深める活動を支援します。

p5 広報活動等事業

- 「国土交通Day」 ●「川の日」
- 交通事故防止キャンペーン
- 道守活動事業、「土木の日」他

p8 講習会等事業

- 九州地域づくり協会主催によるセミナー等

p9 九州建設資料館運営事業

- 本部資料室「KMAプラザ」の設置
- 贈与図書等の整理 ●検索システム更新等

2 建設事業の推進及び 普及のための 調査研究事業

実施額：45.4(百万円)



【事業の概要】

九州における社会資本整備の普及とさらなる理解を図ることを目的として、社会資本整備の歴史の調査研究、建設技術等の推進に関する調査研究及び人材育成への支援を行います。

調査研究事業

- p10 ①九州土木遺産調査研究
- p12 ②九州地域の社会資本整備の歴史
- p13 ③防災に関する調査研究

研究等助成事業

- p14 ①大学等への研究助成事業
- p17 ②人材育成に関する助成事業

3 地域活性化等 支援事業

実施額：14.7(百万円)



【事業の概要】

社会資本整備に対する理解の醸成を目的として、河川・道路等の愛護活動を通じた地域活性化、体験学習等を通じた人材育成、地域インフラの愛護活動及び地域資源等を活かした地域活性化の活動を支援します。

地域活性化等支援事業

- p18 ①河川・道路愛護活動を通じた地域活性化活動支援事業
- p18 ②環境(体験)学習による人材育成活動等支援事業
- p21 ③河川・道路等の愛護活動支援事業
- p23 ④地域資源の活用による地域活性化活動支援事業

4 防災活動等 支援事業

実施額：31.2(百万円)



【事業の概要】

安全・安心な暮らしに寄与することを目的として、近年の異常気象等により発生する災害に対し、公共土木施設等の整備・管理等に専門的なノウハウをもつ集団やNPO等が取組む活動を支援します。

防災活動等支援事業

- p24 九州防災エキスパート会支援事業
- p26 災害ボランティア活動等支援事業
- p28 令和2年7月豪雨に伴う被災地への復旧支援事業

1

社会資本整備に関する 広報活動事業

広報活動等事業

●全国行事

令和2年度「国土交通Day」



フォトコンテスト(国土交通Day)

令和2年度「川の日」



出典: いい川・いい川づくり
実行委員会HPより

出典:「日本水大賞」受賞、記者発表資料より

●図書等の配布



交通事故防止キャンペーン



会報九州



公益目的事業報告書



調査研究助成事業
成果報告書

社会資本の整備・利活用に向けた地域活性化や啓発活動につながる事業及び全国規模開催の「国土交通Day」、「川の日」等へ協賛するとともに、小・中学校で実施されている「交通事故防止キャンペーン」等へ図書を寄贈しています。

また、当協会では、協会活動等を紹介する「会報九州」、支援する河川、道路、地域づくり等の「公益目的事業報告書」及び「研究助成成果報告書」を作成しています。

更に、地域住民へ河川、道路、地域づくりなどの理

解を深める啓発活動(広報・学習活動等)やNPO等の市民団体を支援するため、当協会ホームページにおいて一般公募を行ない、令和2年度についてはコロナ禍による活動中止等もありましたが、14団体の事業に対して支援しました。

特に「土木の日」のイベントでは、土木の仕事や役割、防災の重要性等をPRするとともに、「地域の夢・アイデア発掘・活用事業」や九州各地における道路の清掃・美化等の「道守会議」の広報活動についても支援しました。

● 広報活動事業の一部を紹介

道守活動事業

道守柳川ネットワーク

事業の内容

- 第39回道守全体会議、講演会、道守清掃活動
- 第40回道守清掃活動

事業の効果

- 道路清掃を行うことにより、公共の場所もみんなて美しくしようという意識が芽生えました。
- 道路や掘割の清掃に地元高校生が参加することで、ゴミのポイ捨てに対する意識改革や郷土を愛する心を育むのに貢献しました。



道守支援事業

特定非営利活動法人 道守長崎

事業の内容

- 道守長崎世話人会議開催
- 花植え・清掃支援、道守情報発信事業の実施

事業の効果

- コロナ禍の影響により、交流会等の事業が中止となってしまいましたが、その分情報発信の強化につなげました。
- 道路清掃活動や花植え活動により、地域の美化啓発につながり、綺麗なまちづくりに貢献しました。



宮崎県「土木の日」

宮崎県「土木の日」実行委員会

事業の内容

- イオンモール宮崎において、令和2年7月豪雨の災害復旧や土木遺産などに関するパネル展を開催しました。

事業の効果

- 家族連れの来場者が多く、防災関係や土木の仕事、土木遺産に関するパネル展示を通じ、それらに対する理解を深めて頂きました。



第34回 宮崎「橋の日」活動

宮崎「橋の日」実行委員会

事業の内容

- 地域のお宝再発見ツアーin宮崎県南を実施
- 県内外の「橋の日」活動支援（幟旗や活動に必要な資料の送付）
- 「橋の日」PR用グッズ、のぼり旗、パンフレットなどの広報物作成
- 「とんとん地震」絵本を宮崎県内全小学校へ寄贈 等

事業の効果

- テミーとマツの土木広報大賞2020において、優秀賞（イベント部門）3位を受賞しました。
- 「とんとん地震」絵本読み聞かせをYouTubeに配信したところ、とても好評でした。



インフラメンテナンス 国民会議九州フォーラム事業

インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム

事業の内容

- インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム開催
 - 第1部 基調講演、パネルディスカッション
 - 第2部 防災に関する最近の話題 他

事業の効果

- 当事業により、自然災害の課題解決に向けた取り組みの見識を深めることができました。
- 重要文化財としても扱われている石橋の管理方法や活用方法について議論することで、市民参加によるインフラメンテナンスの課題や可能性について共有化することができました。



令和2年度「地域の夢・ アイデア発掘・活用事業」

(一社) 建設コンサルタンツ協会九州支部

事業の内容

- 夢アイデア募集事業
- 夢アイデア交流事業
- 夢アイデア人材育成事業
- 夢アイデア実現化事業

事業の効果

- 応募者の年齢は10代から80代であり、九州のほか東京都、神奈川県、北海道、宮城県にも及び、世代や分野・地域を越えた夢アイデア人の交流ネットワークの構築が実現できました。



講習会等事業

講習会等事業は、河川・道路・地域づくり・防災等の社会資本整備に関する講習会等の開催や他団体の講演等へ支援を行っており、

令和2年度はコロナ禍のなか、以下2件の講演(習)会を主催致しました。

第7回 地域づくり政策セミナー

日時:令和3年1月18日(月)
13:00~17:00
会場:TKPガーデンシティ博多新幹線口
5Fプレミアムホール

※当初、会場80名、Web200名で募集致しましたが、昨今のコロナ感染拡大、福岡県への緊急事態宣言を受け、急きょ会場参加者をWeb受講に変更し、200名を越える完全Web受講での開催となりました。

【目的】
コロナ禍における市民生活の「安全・安心」を確保するうえで、社会インフラの量・質、代替機能の低下等に対する迅速かつ確な対応が喫緊の課題となっています。

本セミナーでは、近年の被災状況、特に令和2年7月豪雨対応を踏まえ、河川及び道路の災害復旧状況等をご紹介するとともに、コロナ禍の市民生活における災害への備えを向上させるため、様々な分野の方々より多面的な知見を頂きました。

【講演内容】
1) 基調講演:「近年の激甚災害と地域ぐるみの防災対策のあり方」/東京大学 虫明 名誉教授
2) 防災・減災に関する事例報告:①九州地方整備局 ②人吉市長 ③九州大学杉本准教授
3) パネルディスカッション:『近年の激甚災害から得られた教訓』/コーディネーター 九州大学 三谷 教授



令和2年度 九州の河川維持管理技術に関する講習会(南部)

日時:令和2年12月19日(土)
13:00~17:00 (開場12:30)
会場:TKPガーデンシティ鹿児島中央 薩摩ホール
定員:会場/80名、Web/200名(対象/九州・山口県内、配信/Zoomウェビナー)

【目的】
近年、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化していることから、防災・減災においては、日頃からの維持管理の重要性が高まっています。
現在、高度経済成長期に造られた多くの構造物が老朽化し、今後耐用年数を迎えるため、河川管理における技術者の技術力向上を目的とした講習会を開催しました。

【講演内容】
1) 自然が多様で豊かな河川管理について(その3) 宮崎大学名誉教授 杉尾 哲 氏
2) 河道の維持管理について 国土技術政策総合研究所 河川研究室長 福島 雅紀 氏
3) 今後の九州地域における河川維持管理について 国土交通省 九州地方整備局 河川部 河川情報管理官 竹下 真治 氏



九州建設資料館運営事業

河川・道路等の社会資本は、20世紀の後半から飛躍的に進展し、さらに21世紀に入り大きく変化をとげ、近年、国内で頻発する自然災害に対しても、社会資本整備が果たす役割は益々重要となっています。

このため、平成17年4月より、当協会福岡支所の九州建設資料館において、当協会が収集及び寄贈を受けた図書等について一般公開を行ってきました。

当協会では、更なる利活用向上を図るため、閲覧対象となる図書約4,000冊について、九州建設資料館から当協会本部に移動を行い、令和2年11月、「KMA※1プラザ」を設置しました。

KMAプラザでは、主に河川、道路、トンネル、橋梁、建設、土木、環境等の分野の技術図書を中心として、災害記録や各種工事報告書などを閲覧することができます。

なお、対象図書については、協会ホームページの「図書検索システム」によりご確認ください。



※1) KMAは九州地域づくり協会の英文表記 Kyushu Management Associationの略です。



開館時間	9:00～16:00 (会議室内に併設のため、事前にお電話でご確認及びお申込み下さい。)
休館日	土日祝日および年末年始 (12/27～1/4) ※ 臨時休館等の変更あり
電話	092-476-5680 (九州地域づくり協会 企画部企画課)
所在地	福岡県福岡市博多区博多駅東 2丁目5-19 サンライフ第3ビル4F



交通のご案内

●JR鹿児島本線 博多駅より徒歩3分

土木技術に関する資料寄贈をお願いします

ご寄贈くださる場合には、あらかじめ上記問合せ先にお電話をいただけたら幸いです

2

建設事業の推進及び普及のための 調査研究事業

調査研究事業

①九州土木遺産調査研究

調査研究事業

本事業は、若い土木技術者達をはじめとした関係者が土木の仕事に誇りを持ち、土木への志を奮い起こさせ、土木技術の啓発・継承や継続的な人材育成に役立てるための調査研究です。

先人達が時代の技術や知恵を集結し、次世代のために築造させた歴史的な土木施設に光を当て、地域の貴重な土木遺産[252施設(群)]として、観光、地域振

興に活用することを目的に、平成17年度より当協会WEBサイト「土木遺産in九州」を一般公開してきました。

特に、当サイト内のシリーズ「土木遺産紀行」については、これまでも、地方紙や観光ガイドブック、出版図書等において幅広く活用されています(下図)。

令和2年度においては、土木遺産の活用策検討を行いました。

●出版図書等への活用例

※土木技術 Vol.72 No.11(九州の土木遺産紀行)土木技術社より

○出版図書への掲載

土木遺産は地域資源として評価されるものもあるため、今回13箇所について、「教会と橋の道を往く」、「筑後路を往く」、「近代産業の轍」のテーマにより、旅物語風に紹介しました。



関門国道トンネル
(山口県下関市～福岡県北九州市)



筑後川昇開橋
(福岡県大川市～佐賀県佐賀市)



眼鏡橋
(長崎県長崎市)

土木遺産の活用策検討

1.検討の目的・概要

本検討は、土木遺産活用による地域活性化を促すため、指定済みの九州管内の土木遺産の活用と新たな土木遺産の発掘を目的としており、令和2年度においては、専門家による委員会及び準備会を開催し、土木遺産を活用した地域活性化策について検討を行いました。

2.令和2年度の検討内容

(1)変遷調査

福岡県内の「筑後川中流域」および「国道3号薩摩街道」を対象に、文献調査、現地調査結果に基づき、それぞれの変遷と経緯、周辺地域の地域資源について調査を行いました。

①筑後川中流域

筑後川中流域の変遷を調査するとともに、水害の履歴や利水のための構造物、治水・利水に関わった人物や地域に残る伝承・石碑等について調査しました。

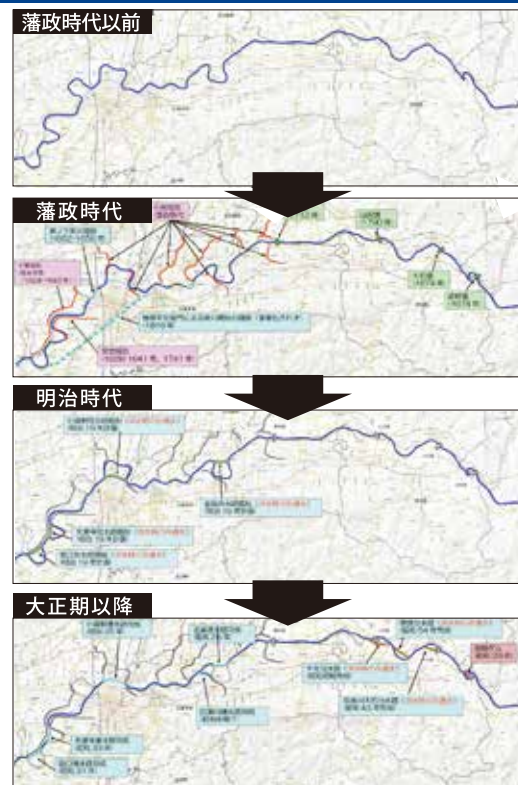


図1 筑後川中流域の変遷

②国道3号薩摩街道

現国道3号に相当する福岡～熊本間を結ぶ幹線道路のルートの変遷を調査するとともに、変遷の背景についても道路の整備目的、移動手段の変化や都市と道路の関係等の視点から調査しました。

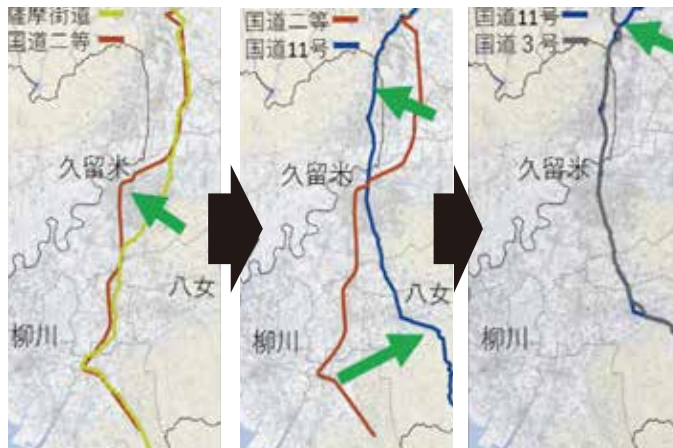


図2 福岡～熊本間の幹線道路のルート変遷

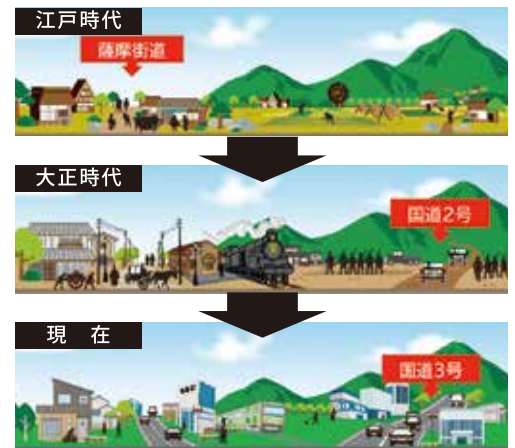


図3 幹線道路の横断図の変遷イメージ

(2) 土木遺産活用策検討

土木遺産に関心のない方を巻き込むことを目的に、活用方策のターゲットと、ターゲットごとの活用策を検討しました。

<p>A：親子向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ■自由研究 <ul style="list-style-type: none"> ●自由研究の調査材料として、「土木遺産」を提案する。 ■ウォークラリー <ul style="list-style-type: none"> ●地域イベントで、子供達グループ、または親子で楽しめるウォークラリーを企画する 	<p>B：シニア向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ツアー・散策 <ul style="list-style-type: none"> ●土木遺産と現在の地域資源とを組み合わせられる場所で、調査結果を活用した街歩きツアー等を企画
<p>C：土木遺産マニア向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ■土木遺産カード <ul style="list-style-type: none"> ●筑後川の土木遺産を巡ってもらうために、訪れた記念になるカードを作成する。 ●遊び心のあるカードで話題づくり、シリーズ化して盛り上げる。 	<p>D：関心のない方向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ■紹介パンフレット作成 <ul style="list-style-type: none"> ●筑後川中流域の土木遺産に加え、地域の文化、おすすめの逸品などをパンフレットに。 ■特典付きスタンプラリー <ul style="list-style-type: none"> ●スマホで公開できる「特典付きスタンプラリー」で、関心のない方の目まで届くようにする。

(3) 土木遺産活用策検討委員会(準備会)

土木遺産活用策の検討に当たり、各専門分野の立場から土木遺産の活用に向けた調査や地域活性化の取組、広報展開等について検討する場として、令和2年度は4回(現地視察1回を含む)の準備会を実施しました。

【準備会開催日時】 第1回：令和2年7月22日、第2回：令和2年9月28日、
第3回(現地視察)：令和2年11月9～10日、第4回：令和3年2月26日

(4) 筑後川中流域現地視察(令和2年11月9日～10日実施)

土木遺産の歴史・現状を把握することおよび地域資源と土木遺産との連携可能性について検討することを目的に筑後川中流域(うきは市、田主丸町付近)を対象とした現地視察(第3回準備会)を実施しました。



現地調査の様子

(5) 土木遺産活用策検討委員会

準備会での検討結果を踏まえ、新たな土木遺産活用に向けての方向性を検討する場として、令和2年度において第1回目の委員会を開催しました。

【委員会開催日時】第1回：令和3年3月11日



第1回委員会の開催状況

②九州地域の社会資本整備の歴史

調査研究事業

本事業は、土木遺産の中から主要なものを選び、建設に携わった先人の方々の功績にスポットを当てた取り組みです。

これまでの技術的な観点だけでなく、これらの施設に長年かかわってきた担当技術者等の努力、地域の方々の協力等により成し遂げられた実現のドラマを新土木遺産「プロジェクト九州」として取りまとめ、平成23年6月の第一巻から令和元年11月の第九巻まで発刊しています。

なお、第九巻の「原点— 全ては除災招福のために」は、平成29年7月の九州北部豪雨より国土強

靱化を問うとともに、地域を拓く道としての「九州5道」や土木技術者の献身、古代の水城築堤、長崎街道などの古道の話などを収めた「プロジェクト九州」の完結巻となっています。

今まで発刊した第一巻から第九巻は、九州各県・政令都市の土木部局や図書館、九州内の大学、工業高等専門学校へ寄贈を行っています。

また、これらの蔵書をより多方面に啓発する目的で、順次、一定のルールを附しながら協会ホームページへの掲載を進めます。

●冊子プロジェクト九州



第一巻



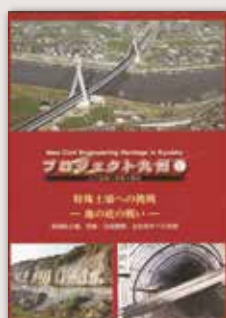
第二巻



第三巻



第四巻



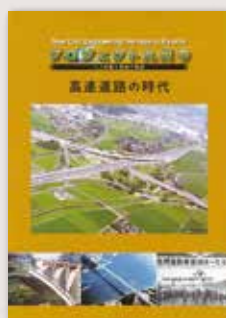
第五巻



第六巻



第七巻



第八巻



第九巻

冊子プロジェクト九州 第九巻より抜粋



人家を襲った流木(右が大分道)福岡県・朝倉市、平成29年7月



洪水と流木は道路を破壊した(東峰村)



東九州道と宮崎道のJCT(清武JCT)

九州地方においては、大規模かつ多様な災害より教訓を得て様々なことを学んできました。

一方で、災害の教訓は伝えにくく、また過去の災害に関する資料が継承されず、十分に活用されていない状況も見受けられます。

このため、九州地方において過去に発生した地震、津波、火山災害及び風水害に関する調査結果を平成24年より収録し、災害情報WEBサイト「九州災害履歴情報データベース」として継続的な公開を行っています。

災害履歴の補填調査

1、経緯

これまで「九州災害履歴情報データベース」として公開していますが、特筆すべき地震、津波等に係る詳細な記述の一方で、風水害については、被害が顕著な県を中心とした災害履歴を整理した内容に留めていました。



H29.7(朝倉市) 赤谷川・乙石川合流点



R1.8(武雄市)被災直後 六角川

2、検討の目的・概要

近年、「平成29年7月の九州北部豪雨災害」、「令和元年8月の前線に伴う大雨」、「令和2年7月豪雨」など、全国各所において頻発する広域かつ激甚な洪水とともに、東九州における「南海トラフ地震」への脅威が懸念されています。

このため、地域防災への備えを再認識して頂くために、令和元年度より概ね3年間をかけ、各県の災害履歴から先人の知恵や伝承記録等を踏まえた補完調査を行うものです。

2)令和2年度

九州全県における予備調査を進めるとともに、現行の災害履歴情報に不足する風水害関連を中心に以下において現地調査を行い、過去の災害や現地に残る自然災害遺構などをとりまとめた資料を作成しました。

3)令和3年度

災害履歴情報を活用した今後の防災まちづくりを提案し、その成果等については、当協会WEBサイト「九州災害履歴情報データベース」に反映する予定です。

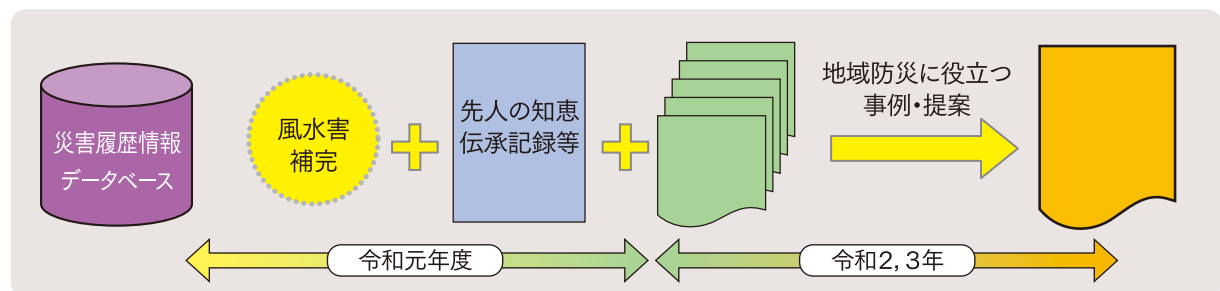
3、検討内容

1)令和元年度

昭和28年以前、平成30年度及び令和元年度における風水害履歴等の補完とともに、試行区域(福岡県全域)における予備調査(関連資料の収集整理)及び年度毎の検討事項を整理しました。

■現地調査箇所：6箇所

No.	対象地	市町村名	主な災害履歴
1	球磨川	熊本県人吉市他	R2.7河川氾濫
2	筑後川	福岡県久留米市他	H30.7、R1.8、R2.7内水氾濫
3	六角川	佐賀県武雄市他	R1.8河川氾濫
4	大淀川	宮崎県宮崎市	H17台風14号による浸水被害
5	霧島連山新燃岳	宮崎県高原町他	H23.1に52年ぶりに爆発的噴火
6	本明川	長崎県諫早市他	S32.7諫早大水害、S57長崎大水害



調査研究

1、[趣 旨]

国際化、情報化等の進展に伴い、国民のニーズが多様化する中、適切な国土管理及び円滑な社会資本整備の進め方などに寄与するため、土木技術全般に関わるハード及びソフト両面についての調査研究が求められています。

このため若手研究者の育成も兼ね、九州地区の大学・工業高等専門学校に対し、テーマを定めた募集を行い、調査研究に要する費用を助成しています。

2、[募集テーマ]

1)一般テーマ

土木技術全般に関わる新分野の取り組み等のハード及びソフト両面についての調査研究。

2)特定テーマ

①地域の活性化・再生

人口の減少、高齢化や産業の衰退などにより悩む地域の活性化、地域の自立を図る基盤整備、魅力ある観光地の創出、よりコンパクトな市街地への再生、コミュニティによる活力あるまちづくりなどが求められています。

そこで

- (1)社会的課題解決に向けた住民、NPO、大学、行政が連携して、取り組むまちづくり
- (2)観光などの産業振興や高齢社会及び訪日外国人を支援する社会資本づくりとそのあり方
- (3)地方創生、過疎地域の活性化対策

などの幅広い分野におけるハード及びソフト両面からの調査研究。

②インフラの老朽化対策及び生産性向上方策

政府は2013年を「社会資本メンテナンス元年」と位置づけ、これまでにインフラ長寿命化基本計画に基づき行動計画や具体的な点検・修繕計画を展開中です。

さらに国土交通省では、2016年を「※生産性革命元年」と位置付け、社会全体の生産性向上につながるストック効果の高いインフラ整備・活用や、関連産業の生産性向上、新市場の開拓を支える取組を加速化しています。

これらを踏まえたインフラの老朽化対策における堅実な取組み及び生産性向上方策の取組みに対するハード及びソフト両面からの調査研究。

※国土交通省HP

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/sosei_point_tk_000021.html

参照、「国土交通省生産性革命プロジェクト」にてパンフがダウンロード出来ます

③九州地域等における防災・減災対策

近年の激甚化している災害により全国で大きな被害が頻発している状況から、平成30年12月14日に「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策 ※」が閣議決定されており、九州地域等におけるハード対策及びソフト対策として社会インフラを預かる関係機関の備え方や市民への働きかけ、さらにはボランティアのあり方など、多くの切り口からの調査研究。

※ 国土交通省HP

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo01_hh_000028.html 参照

●令和2年度 研究等助成事業

応募案件について、実現性や研究開発による効果等の観点より、学識経験者、有識者等で構成された以下の2回の審議委員会において厳正な審査を行い、以下の3件が決定されました。



令和元年10月21日(月)
令和2年度研究等助成に関する募集要領及び募集テーマの説明



令和2年3月4日(水)
令和2年度研究等助成内容の選考検討等

令和2年度 調査研究応募件数

1) 応募者別(特定テーマ/一般テーマ)

応募者	一般テーマ	特定テーマ	計
九州各県の国、公、私立各大学の研究者	1件	11件	12件
九州各県の工業高等専門学校の実験室の研究者	1件	0件	1件
計	2件	11件	13件

2) テーマ別応募件数

一般/特定	テーマ	件数
一般	土木技術全般に関わる新分野の取り組み等のハード及びソフト両面についての調査研究	2件
特定	地域の活性化・再生	1件
	インフラの老朽化対策及び生産性向上方策	5件
	九州地域等における防災・減災対策	5件
計		13件

令和2年度 調査研究決定者一覧表

番号	大学・高専名	研究課題名	研究テーマ	実施期間
1	九州大学 大学院 工学府 都市環境システム工学専攻	連続波高出力レーザー処理による重度腐食部材の損傷蘇生と防食皮膜の高耐久性化の実現	特定	2020年4月1日～ 2021年3月31日
2	九州大学 大学院 工学研究院 社会基盤部門	詳細解析による地震時複合荷重作用下の鋼製支承の挙動と終局状態の解明	特定	2020年4月1日～ 2021年3月31日
3	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 地下水循環部門	太陽光の効率的利用による下水道管きよ内の有機物分解技術の開発	特定	2020年4月8日～ 2021年3月31日

●令和2年度追加分 研究等助成事業

【趣 旨】 平成29年九州北部豪雨、令和元年8月前線に伴う大雨、更には令和2年7月豪雨など、近年、毎年のように九州地区において豪雨による激甚災害が発生しています。

このため、当協会では、近年の異常気象を踏まえ、九州における強靱な基幹インフラ整備、命を守る情報伝達及び避難システムの検証など、今後の復旧・復興を視野に入れた防災・減災につながる幅広い分野からの題材を募集しました。



研究等助成審議委員会(令和2年11月13日)

【募集テーマ】 近年の九州豪雨災害に関連する防災・減災対策(～令和2年7月豪雨を契機として～)

【応募期間】 令和2年9月1日(火)～令和2年10月12日(月)

【研究期間】 令和2年12月15日～令和4年3月31日

【決定者】 応募総数11件の中から、厳正な審査により以下の4件が決定されました。

番号	大学名	研究課題名	実施期間
①	九州大学大学院 工学研究院 環境社会部門	大規模豪雨災害におけるダムの事前放流の減災効果と異常洪水時防災操作の影響ならびに流域治水におけるダムの活用に関する検討	R2年12月15日～ R4年3月31日
②	西日本工業大学工学部 総合システム工学科 土木工学係	令和2年7月豪雨までに生じた北九州市圏域における斜面崩壊跡地での現場調査と警戒避難システムに関する研究	R2年12月15日～ R4年3月31日
③	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 土木建築学科	数値モデルを用いた高潮・高波・浸水の高精度予測システムの構築	R2年12月15日～ R4年3月31日
④	鹿児島大学大学院 理工学研究科 博士後期課程	しらす盛土法面に対する草本類種子散布工による法面保護効果の定量的検証	R2年12月15日～ R4年3月31日

●令和元年度 研究助成成果報告会 (令和2年8月27日(木))

平成15年度より研究助成事業を開始し、研究助成の成果発表会は昨年度に続き7回目の開催となりました。



理事長あいさつ



報告会の開催状況

今回の5件の研究については、現在の社会ニーズに合った研究だったと思います。中には、もっと研究速度を上げたほうがよいと思う研究もありましたが、今回の研究テーマについては、比較的早く研究成果が出そうな研究だったと思います。

皆様の研究への更なるご尽力を期待致します。

ただし、今回の研究テーマの中には、少し研究成果が出るまで、時間が掛かるものも見受けられました。その研究は、解析精度の設定のやり方が、その研究成果において重要になると思われました。具体的には、当初は粗い精度設定で行い、その後の研究程度を踏まえ、精度向上を行う方がよいと思いました。

ありがとうございました。



講評/角 知憲
(研究等助成審議委員長)

人材育成

社会の国際化、情報化等に伴い、国民ニーズが多様化する中、適切な国土管理、円滑な社会資本の整備及び利活用を進めることが重要となっています。

このため、河川、道路、環境、防災、構造物維持

管理、景観デザイン等をテーマとして、九州地区の大学、工業高等専門学校、団体等を対象とした実践的な人材育成や教育の取り組みを募集しており、令和2年度は、下表の3大学、1法人に助成を行っています。

令和2年度 調査研究等助成申請 人材育成決定者一覧表

番号	大学・法人名	研究課題名	実施期間
①	九州大学大学院 工学研究院 附属アジア防災研究センター	道路維持管理のためのエンジニアリング実践教室	2020年4月17日～ 2020年8月7日
②	長崎大学 大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター	若手建設業関係者を対象とした道守補助員コースの 開催と評価	2020年5月1日～ 2021年3月31日
③	一般社団法人 九州橋梁・構造工学研究会	九州・山口地区の大学・高専の若手人材ネットワーク の育成を目指した道路や橋梁等の現状や将来展望 に関する実践的な研修会	2020年11月14日～ 2020年11月14日
④	西日本工業大学 工学部	九州地域での次世代を担う地盤エンジニアの育成	2020年4月1日～ 2021年3月31日

[人材育成や教育の取り組み概要]

①	<p>大学が西日本高速道路(株)九州支社(NEXCO西日本)と連携し、高速道路業務の理解促進ならびに大学、NEXCOとの技術交流・情報交換を行うものです。</p> <p>今回参加の学生からは、「大学では学べない道路の知識を新たに得ることができ、大変ためになった」「舗装について学ぶ機会が今までなく、良いきっかけになった」等の声が聞かれ、全般的に良い評価が得られたと報告されています。</p>
②	<p>今日、高度成長期に建設されたインフラが老朽化し、維持管理・長寿命化が喫緊の課題となっており、異状の早期発見と早期対策が必須となっています。</p> <p>このため、若手建設業関係者を対象に「道守補助員コース」を開催し、インフラの維持管理に関心を持ってもらい、道守活動に参加してもらう人材を養成しようというものです。</p> <p>今回参加の若手からは、市民がインフラを見守ることの重要性、見守る場合の留意点、道路異常通報システムの活用、道守制度の役割や重要性を良く理解することができた等の声が聞かれ、非常に貴重な体験であったと報告されています。</p>
③	<p>民間法人“KABSE”が実施している学生研修会であり、実社会で活躍している技術者から学生に対し、道路や橋梁をはじめとした社会基盤設備の重要性・現状・今後の展望などを紹介しています。</p> <p>今年度は、コロナ禍のためオンライン開催となりましたが、「海外で働く技術者」や「維持管理」に的を絞った講演を、学生と年齢の近い若手・中堅技術者・女性技術者から聴講・討議できたことは、学生にとって大変有意義な研修会であったと報告されています。</p>
④	<p>地盤工学関連に関する研究を行っている学部生・大学院生を対象に、実際の現場や様々な研究事例に直接触れる機会を提供し、広い視野を持つ人材の育成を目指すものです。</p> <p>参加学生にとっては、施工状況の見学、聴講や体験を通して、リアルな土木技術者の仕事を知ることや異なる大学間の研究室レベルにおいて、より深い研究交流ができたと報告されています。</p>

3

地域活性化等 支援事業

●地域活性化等支援事業の一部を紹介

①河川・道路愛護活動を通じた地域活性化活動支援事業

河川や道路を舞台とした愛護・啓発等の活動とともに地域イベント等を開催し、地域活性化を図るNPO等の団体活動を支援しています。

令和2年度は、NPO等の団体が活動主体となった2事業を支援しました。

河川愛護活動

小島校区まちづくり委員会

事業の内容

- 健康ウォーキング実施
- 白川の日河川敷清掃活動
- 芦北町への炊き出し活動
- 小島公園桜管理

事業の効果

- 毎年実施している炊き出し訓練のノウハウを活かし、令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた芦北町の避難所に向いて、炊き出しを行い、避難されていた方々から大いに感謝されました。



②環境(体験)学習による人材育成活動等支援事業

水辺を遊びの場、自然体験の場、自然環境調査の場とするイベントを開き、川遊び、自然観察、環境(生物、水質)調査等の学習を通じて河川環境保全の重要性を啓発する活動を支援しています。

また、河川をフィールドとして活動する人材を育

成しているNPO等やボランティア団体と地域住民が連携する活動についても支援しています。

令和2年度は、川を体験する諸活動や環境保全活動等の9事業を支援しました。

鮭稚魚の孵化・育成・放流活動

遠賀川源流サケの会

事業の内容

- 鮭の遡上調査
- ふ化場への給水と整備
- 発眼卵からふ化までの水量・水温の管理及び給餌
- 鮭稚魚の放流

事業の効果

- 嘉麻市大隈の嘉穂水辺の楽校を皮切りに、各地で稚魚の放流を行いました。今年はコロナウィルスの影響により、放流を中止する団体が多く大変残念でした。



リバーチャレンジスクール

直方川づくり交流会

事業の内容

- 遠賀川から花のプレゼント
- バードウォッチング
- くり箸づくり
- 菜の花染め
- チューリップを描こう

事業の効果

- 子ども達の活動は、数多くの新聞やマスコミに取りあげられ、また、リバーチャレンジスクールの体験を通して描かれた河川愛護月間絵手紙が国土交通事務次官賞を受賞するなど、高い評価を得ています。



アザメの瀬関連事業

特定非営利活動法人アザメの会

事業の内容

- アザメの瀬で魚とり
- アザメの瀬体験
- 田んぼの楽校
 - 田植え・稲刈り
 - アザメ体験学習会
- 田んぼで魚とり
- ふくおか水もり自慢in伊都参加

事業の効果

- コロナ禍で中止した企画はあったものの、開催した企画には地区の役員の方々への参加もあり、田んぼの楽校等を通じて、児童や保護者区民に対して、環境問題への意識啓発となりました。



ふるさとの水辺を生かす 体験学習と人材育成

自然と暮らしを考える研究会

事業の内容

- 体験型の支援と出前講座
- 川の安全教室(リバースクール)開催
- 水辺の環境整備(河川敷の除草・処理)
- 人材育成事業(交流・会議・WSなど)

事業の効果

- 子ども達の遊びの場だけでなく、体験学習や幼少中高生の総合学習の場として支援することで、自然や郷土愛を育む大切な活動となっています。



山・川・海をつなぐ自然体験学習 及び環境保全活動

特定非営利活動法人 天明水の会

事業の内容

- 天明中学校と炭焼き体験及び河川の浄化作業
- 緑川最上流域での森づくり

事業の効果

- 緑川最上流域での広葉樹の森は大きく育ち、様々な便益をあげています。
- 「海苔養殖の廃材竹」は竹炭にして最下流域河川の水質浄化に役立っています。
- 魚や水草も随分増え、所によりカワセミの姿が見られるようになりました。



魅力あるふる里の川づくり事業

赤江未来の会

事業の内容

- 河川の草刈り(年2回)
- 堤防に彼岸花の球根植栽
- 総合的な学習支援実施(本郷小学校4年生)

事業の効果

- 河川の草刈りは、地域住民の安心・安全な散歩コースづくりとなり、皆さんに感謝されています。
- 彼岸花の植栽は、中学生ボランティア活動の意識向上や思い出のふる里川づくりとなり、自然環境を大切にする心が芽生え、将来の後継者育成に期待できます。



河川愛護の精神を次世代に繋げたい

流域のアユ好きが集まり、昭和56年に結成された「始良川アユ同好会」が、昭和60年に「始良川河川愛護会」に改称し、アユが泳ぎ、釣りや川遊びが楽しめる始良川の環境を守る活動に取り組んでいます。現在の会員は約150名で、毎年6月に吾平町をあげて行う始良川クリーン作戦は、30年以上も継続している河川清掃活動であり、幅広い年代の住民・約300人がボランティアで参加しており、その成果として回収されるごみの量は年々減少しています。

河川愛護の気持ちを次世代に繋げるため、始良川への稚アユの放流や釣り大会、作文・図画ポスターコンクールなども実施しています。

協会からの支援は、稚アユの購入費や運搬費、クリーン作戦の運営費などに活用しています。



ラブリバー団体支援事業
始良川河川愛護会

会長 小浜 昭二氏



稚アユの放流

③河川・道路等の愛護活動支援事業

河川や道路等を慈しみ、住民参加型の維持管理（清掃・美化）を積極的に行い、道路利用者等へのマナー向上や道路愛護思想の啓発普及に努めている沿道住民、NPO、企業等団体のボランティア活動

（歩道清掃、花壇の維持管理）を支援することにより、地域コミュニティの活性化に寄与しています。

令和2年度は87事業を支援しました。

ボランティア・サポート・プログラム

吉井コスモス街道

事業の内容

- 道路の清掃活動
- コスモスのための除草作業、種まき、肥料まき
- コスモス開花後の刈り取り、撤去作業

事業の効果

- 延べ人数150名以上の参加を得て実施した結果、地域住民・バイパス利用者の美化意識が高まり、歩行者・運転者の心の安らぎにつながり、ポイ捨てが減少しました。



ボランティア・サポート・プログラム

たんぼぼの会

事業の内容

- 花いっぱい運動（清掃、緑化活動）
- ふれあいサロン開催（学習会）

事業の効果

- タバコの吸い殻、空き缶、ゴミ等が非常に少なくなり、通行人のマナーアップにもつながっています。
- 地域の人たちとコミュニケーションの輪が広がっています。



ボランティア・サポート・プログラム 208号清掃、花壇管理事業

玉東町 町区会

事業の内容

- 花壇の維持、管理
- 歩道清掃

事業の効果

- 当該箇所は交通事故の多発地点であり、花壇の美化作業は運転者の目を和ませると共に、事故防止にも貢献しています。
- この事業を活用した独居老人の見守りや地域防災活動の安否確認作業に大いに役立っています。



ボランティア・サポート・プログラム

鵜戸山をかつとしやる協議会

事業の内容

- 歩道の清掃等の美化活動
- 花苗の植樹、手入れ等の緑化活動

事業の効果

- この活動に高齢者の自由参加があり、地域住民への道路愛護思想の啓発普及につながりました。
- 手洗川等の浄化活動で清水がもどり、ホタルが見れるようになりました。また、マスコミ等による活動取材や情報誌等への掲載もありました。



ボランティア・サポート・プログラム

柘原地区振興会

事業の内容

- 花壇への花植え、除草、耕運、施肥作業
- 花後の摘み取り作業
- 2020年7月の大雨後の土砂除去活動

事業の効果

- 今年初めて、播種から育苗までを行いました。育てた苗は少なかったようですが、来年につながる取り組みとなりました。
- 「国道沿いの花がきれい」「柘原はきれいな町だ」との声を頂いています。



本明川河川敷の除草・清掃・コスモスの植栽

本明川をきれいにしゅう会

事業の内容

- 河川敷の除草、清掃活動
- コスモスの植栽

事業の効果

- 今年はコロナ禍のため、密にならない河川敷への人出は例年より多く、コスモスの植栽は多くの見学者の河川愛護・美化意識の向上に貢献しました。



④地域資源の活用による地域活性化活動支援事業

身近な公共空間である「道」を舞台に、地域資源（景観、自然、歴史、文化、考古、食・産物、祭り等）を最大限活用し、住む人・訪れる人にとって魅力的な九州を実現することを目的に、「九州風景街道」の

取り組みが管内15ルートで展開しています。

これらの活動を進める多様な主体（地域住民、NPO、町内会・自治会等）の諸活動を支援しています。令和2年度は11団体の活動を支援しました。

日本風景街道 「島原半島うみやま街道」推進事業

島原半島うみやま街道推進協議会

事業の内容

- 一斉清掃イベント実施
- 各種イベントPR用のほり旗製作

事業の効果

- 一斉清掃等のイベントの際、のほり旗を使用することで、日本風景街道、島原半島うみやま街道をPRすることができました。



令和2年度 薩摩よりみち風景街道 観光客受入事業

薩摩よりみち風景街道協議会

事業の内容

- 企画会議開催
- エリアワークショップ・意見交換会開催
- 企画報告会議開催

事業の効果

- 「薩摩よりみち風景街道」を周知するため、看板を製作し、5市1町の各ルートを設置しました。民間と行政が連携した地域の魅力向上のための取り組みができました。



サイクリングの特性活かし地域振興

太い幹線道路も細い生活道路も自転車なら走れるし、ゆったりしたスピードだから、風景や地域の暮らしも味わえます。こうしたサイクリングの特性を活かした地域づくり&地域起こしに4年前から取り組んでいます。たとえば、サイクリングロードを整備すると、沿線の市町村を人が訪れることで、地域が活気づくのです。最近、地域の名所や店舗、施設など設定されたスポットを自転車で巡り、得点獲得を競うサイクル・ロゲイニングが注目されていて、私たちも実施を計画中です。

国東半島～別府～大分～佐賀関を走る全長152kmの湾岸ロードは爽快なコースとして人気です。

協会からの支援は、この観光サイクルマップの増刷に役立っています。



サイクルマップリーフレット



日本風景街道
別府湾岸・国東半島海への道
推進協議会
事務局長 加藤 千明氏

4

防災活動等 支援事業

九州防災エキスパート会支援事業

九州防災エキスパート会は、九州地方整備局のOBで組織している災害支援のボランティア団体です。

これまで培ってきた防災の知識・技術を生かして、災害時には現場に出動し復旧工法の指導などを、また平常時には防災担当者や水防団などを対象に出前講座や水防工法の指導などを行っています。

令和2年度は、新たに39名の新会員が加わり、令和3年3月現在、会員数461名となっていますが、近年の災害の激甚化・頻発化等より、エキスパート会に求められる役割や活動内容も変化しており、現在、当会の組織と活動内容の見直し検討を進めています。

1. 令和2年度の災害と出動

—令和2年7月豪雨・球磨川の大雨—

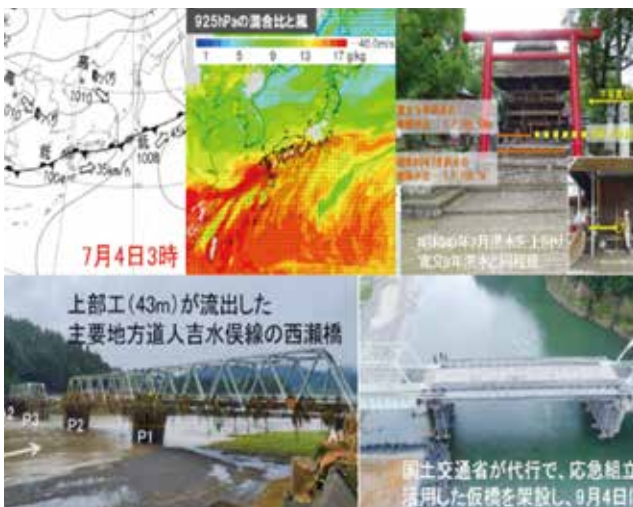
7月3日から4日にかけて、熊本県南部に停滞していた梅雨前線を小低気圧が通過し、この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流入したため、4日未明から朝にかけて球磨川流域で、12時間に400ミリを超える雨が降りました。

川辺川との合流点付近から下流にかけて、いたるところで浸水被害や家屋倒壊が発生するとともに、球磨川本川では2箇所での堤防決壊、橋梁17橋の流出など国道や鉄道などに甚大な被害が発生しました。

る大雨になりました。

筑後川上流部で、48時間に800ミリを超える雨が降り、筑後川本川の小淵・荒瀬・片ノ瀬の3観測所で観測史上最高水位を記録しました。護岸の崩壊などの被害が複数確認されましたが、球磨川のような大被害に至らなかったのは幸いでした。

道路関係では、筑後川水系玖珠川沿いの国道210号日田市天瀬町赤岩地区などで甚大な被害が発生し、8月17日まで通行止めになりました。



—令和2年7月豪雨・エキスパート会の活動—

7月4日に八代・熊本の両事務所より待機要請があり、5名の会員が対応し、更に7月6日～9日には、8事務所から出動要請があり、延べ40名の会員が対応しました。

○球磨川支援

7月3日からの梅雨前線豪雨により、上流域の人吉市街部で大規模な浸水被害が発生し、球磨川の堤防が決壊・越水し、橋梁が流出するなど、大規模な被害

—令和2年7月豪雨・筑後川の大雨—

7月6日から8日にかけて、対馬海峡付近に停滞していた梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州北部の広い範囲で大雨特別警報が発表され

が発生したため、災害
査定資料作成に係る
技術的指導の支援要
請があり対応しました。

○筑後川支援

7月7日に発生した
久留米市北野町金島
の筑後川堤防裏の水
田からの自噴の際、現
地で2名の会員が月
の輪工法の指導にあ
たりました。

また、7月12日開催
の国道210号対策検
討委員会に、大分地区の春田会員が委員として参加
し、技術的なアドバイスをを行いました。

— 台風10号 —

令和2年9月7日の未明から明け方にかけて、中心
気圧945hPaの勢力で九州の西岸を北上し、長崎市
野母崎で最大風速44.2m、最大瞬間風速59.4mの強
風が吹きました。

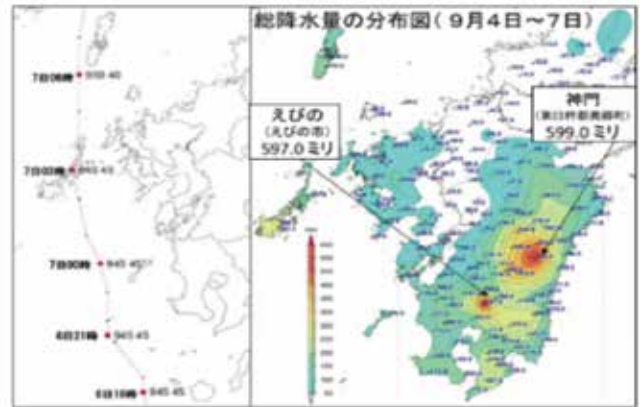
特別警報級の勢力まで発達し、九州全域で大きな



球磨川支援の状況



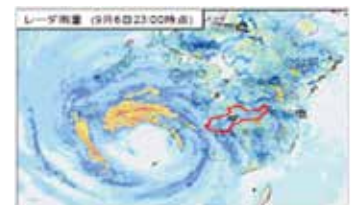
久留米市北の町金島堤防裏の
水田より自噴7月7日10時50分



被害が出ると予想されていたため9月6日～7日に各地
区の会員23名が事務所に詰めて対応しましたが、幸
い雨量はそれほどでもありませんでした。

— 台風10号・エキスパート会のダム管理支援 —

令和2年9月6日～
7日に九州に接近した
台風10号対応として、
緑川ダム管理所と鶴
田ダム管理所から支
援要請があったため、
当会より2ダムへ出動
し、初のダム管理支
援を行いました。



緑川ダム管理支援の様子

2. 防災活動

毎年、九州地方整備局の本局・事務所で行われる
水防演習・洪水対応演習・道路防災訓練・地震防災
訓練・堤防合同巡視などに参加していますが、今年は、
新型コロナウイルスの影響を受け、5月17日に宮崎市で予定
されていた大淀川・小丸川総合水防演習が中止になる
など、多くの行事が中止または規模縮小になりました。

また、11月25日には整備局本局・事務所の会議室
を結ぶWeb会議方式により、地区リーダーも参加して、
整備局との意見交換会を行いました。

更に、令和3年3月25日にもリーダー会議を開催し、
当会の組織と活動内容の見直しについて意見交換を
行いました。

3. 河川技術サポート会

○六角川支援

六角川水系におけ
る過去のすべり状況
や地盤改良実績を踏
まえ、今後の河川改修
における注意点など
のアドバイスについて
意見交換及び現地助言を行いました。



六角川での合同現地調査

○大淀川支援

大淀川下流(宮崎
市街部)の低水路掘
削工事において、岩が
露出してきたため、岩
掘削の施工方法及び
施工にあたっての留意点について助言するため、試験
施工の合同現地調査及び意見交換を行いました。



大淀川での合同現地調査

○菊池川支援

令和2年7月豪雨で発生した菊池川左岸13/500付近の漏水(パイピング)について、発生要因や施工履歴等を基に現地調査及び意見交換が行われました。

また、被災箇所の応急対策についても、復旧工法や使用する資機材等の意見交換及び助言を行いました。



菊池川での合同現地調査

4. 道路技術サポート会

○福岡国道支援

西九州自動車道で唯一未事業区間の二丈～二丈鹿家間(L=11km)は、昨年度より計画段階評価の手續



意見交換の様子

きに着手し、今年度、さらに手続きを進めるにあたり、当区間に関係の深い当会員より、当時の課題や議論された内容について意見を聞きたいという趣旨で開催されました。

○大隅河川国道支援

東九州自動車道の鹿屋串良JCT～志布志IC間(L=19.2km)は、令和3年夏頃の供用予定となっています。



現地合同点検の状況

今回、若手職員の技術力向上と今後の維持管理等に活かす事を目的として、切土高が15m以上の初回法面点検を事務所職員と大隅河川国道にゆかりのある当会員により、現地合同点検及び意見交換を実施しました。

災害ボランティア活動等支援事業

災害時におけるNPOや市民団体等のボランティア活動や復旧活動に必要な装備品の支援を行うとともに、平常時における住民の防災意識の啓発・高揚に向けた講習会、訓練等の活動についても支援を行っています。

令和2年度においては、「令和2年7月豪雨」による熊本県、福岡県及び大分県等の被災地においてボランティア活動を行った以下の九州内9団体に対して支援を行いました。

団体名(代表者名)/所在地	活動概要	活動地区・期間
① SSJ佐賀 (石田勇以) 佐賀県佐賀市	久留米市では水没した家財の清掃作業を行い、球磨村では被災家屋からの家財出しと分別作業を実施。 当協会の迅速な支援金決定にお礼あり。	福岡県久留米市/7日間(7/18～28)/3名、熊本県球磨村/5日間(8/6～10)/5名で活動。
② 大隅災害復旧ボランティア (小野田賢造) 鹿児島県鹿屋市	令和2年7月豪雨により被災した鹿屋市等の被災住宅に対し、鹿屋市社会福祉協議会やNPO法人フードバンクかごしま等と連携した災害復旧支援を実施。	鹿児島県鹿屋市等/8月17日～10月19日の間/土砂出し等の住宅復旧など延べ772名で活動。



久留米市/家財清掃



球磨村/被災した家財出し



家屋からの土砂出し



床下の乾燥

<p>③</p>	<p>人吉球磨 Youth Power (松田亜希子) 熊本県球磨郡あさぎり町</p>	<p>令和2年7月5日より、今回豪雨の災害ボランティア活動支援を行う趣旨で仲間を再結成し、毎日、人吉球磨地域において、被災地の早期復興を目的として支援活動を実施。 コロナ渦の中、人手不足に悩まされた。</p>  <p>床下の泥水排除</p>	<p>人吉球磨地区／令和2年7月5日～復興するまでの間(R3.03現在継続中)／家屋の片付け、再建に向けた床剥ぎ、泥だし、洗浄等、平日2～5名、週末5～8名程度で活動。</p>  <p>床下の洗浄</p>
<p>④</p>	<p>災害ボランティア九州・仁(中村隆則) 熊本県葦北郡芦北町</p>	<p>令和2年7月豪雨被災者の1日も早い復旧を目的としている団体。 コロナ禍で県外ボランティアの要請が出来ない中、ボランティア団体「愛・知・人」の後方支援の下、7月6日、地元被災地を救済するため編成。</p>  <p>壁剥がし、ゴミ仕分け</p>	<p>芦北町／令和2年7月5日～令和3年1月／家屋の床下泥だし、床剥ぎ、壁剥ぎ、乾燥、消毒などを1箇所当たり3～5名で取り組む。</p>  <p>床下の清掃</p>
<p>⑤</p>	<p>Team延壽院(濱田義孝) 熊本県熊本市</p>	<p>平成28年熊本地震より、心と体のサポートを目的に、縁～つながりをテーマに活動。 今回の令和2年7月豪雨では、7月4日より、芦北、人吉・球磨・坂本において、支援物資運搬、被災家屋からのゴミ出し、土砂のかき出し、児童送迎の代行等を実施。</p>  <p>家内の洗浄</p>	<p>人吉・球磨・坂本地区／令和2年11月1日～12月末／家屋の土砂、家財の搬出作業、洗浄等をスタッフ18名で活動。</p>  <p>壁剥がし、ゴミ仕分</p>
<p>⑥</p>	<p>災害復興団体 For Earth(廣瀬哲也) 熊本県上益城郡御船町</p>	<p>熊本県内の災害被災者の復興を目的に、被災家屋の復旧を行っている団体。 令和2年7月豪雨による人吉・球磨の被災を契機に、7月13日、熊本地震の際の活動仲間等と設立。</p>  <p>壁の洗浄</p>	<p>球磨村／令和2年11月1日～12月末予定／床、天井、壁剥ぎ、泥だし、磨き、消毒等の復旧活動をスタッフ10名で活動。</p>  <p>床板の清掃</p>
<p>⑦</p>	<p>きずなたい(高峯源道) 福岡県宗像市</p>	<p>被災地の復旧・復興を目的に全国各地で支援活動を実施。 令和2年7月豪雨の災害ボランティア活動支援の趣旨により、手付かずの被災宅への出来る限りの支援活動を計画。</p>  <p>日田市天ヶ瀬／床下の土砂撤去</p>	<p>人吉市内／令和2年11月10日～12月末／家屋の土砂、家財の搬出作業等を3～5名で実施。</p>  <p>人吉市／家財の搬出</p>
<p>⑧</p>	<p>熊本豪雨災害復興プロジェクト(井出順二) 熊本県阿蘇郡南阿蘇村</p>	<p>災害復興支援・被災者支援を目的として、これまで全国各地で支援活動を実施。 令和2年7月豪雨災害では、土砂出し、流木撤去、家屋の解体、災害ごみの仕分け搬出運搬、家屋の消毒・乾燥・床壁の剥し、物資配布等を実施。</p>  <p>床下の土砂出し</p>	<p>人吉及び芦北地区／令和2年11月30日～12月末／家屋の解体、家財の仕分け、搬出作業、災害ごみの仕分け、搬出運搬作業等をスタッフ7名で実施。</p>  <p>災害ごみの仕分け</p>

<p>⑨</p>	<p>筑後手をつなごう絆の会 (吉武章) 福岡県筑後市</p>	<p>災害・防災ボランティアを目的に、主に筑後市内で啓発活動をしている団体。 これまでに、市民一人一人の防災意識向上と地域に根付く、防災リーダー育成を目的に防災講演会を開催。</p>  <p>災害ゴミの搬出</p>	<p>人吉市内／令和2年11月30日～12月末までの1日間／家屋からの土砂撤去、家財の搬出作業等を会員8名で実施。</p>  <p>災害ゴミの仕分け</p>
----------	---	--	---

令和2年7月豪雨に伴う被災地への復旧支援事業

令和2年7月豪雨により、球磨川や筑後川などの流域自治体において、広域かつ激甚な洪水被害が発生したため、公益事業活動の一環として、8月18～19日：被災した球磨川流域5市町村(人吉市、球磨村、八代市、芦北町、津奈木町)、8月31日：福岡県大牟田市、9月1日：大分県日田市に対して寄付金目録の受け渡しを行い、当協会として、被災自治体の速やかな復旧・復興を支援しました。



人吉市長への受け渡し(R2.8.18)



球磨村長への受け渡し(R2.8.18)



八代市長への受け渡し(R2.8.19)



芦北町長への受け渡し(R2.8.19)



津奈木町長への受け渡し(R2.8.19)



熊本日新聞(R2.8.23)



大牟田市長への受け渡し(R2.8.31)



大牟田市からの感謝状



有明新報 (R2.9.3)



日田市長への受け渡し(R2.9.1)



日田市からの拝領書



日田市facebook(R2.9.2)



西日本新聞(R2.9.3)

広報活動支援事業

多様な道路空間の利用
～緑を活用した安全・安心の国道道路～
特定非営利活動法人 はかた夢松原の会

道守活動事業
道守大川ネットワーク

道守活動事業
道守柳川ネットワーク

P6

道守体験事業・道守交流会
道守佐賀会議

道守支援事業
特定非営利活動法人 道守長崎

P6

令和2年度 宮崎県内道守活動支援事業
道守みやざき会議

道守かごしま座談会・研修会等
(道守かごしま会議)事業
道守かごしま会議

土木の日 熊本行事
土木の日熊本実行委員会

宮崎県「土木の日」
宮崎県「土木の日」実行委員会

P6

第34回 宮崎「橋の日」活動
宮崎「橋の日」実行委員会

P7

九州建設技術フォーラム2020
九州建設技術フォーラム実行委員会

インフラメンテナンス
国民会議九州フォーラム事業
インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム

P7

令和2年度
「地域の夢・アイデア発掘・活用事業」
(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部

P7

語ろうみんなで!三つの輪シンポジウム
(道の駅・日本風景街道・道守)
"語ろうみんなで!三つの輪"実行委員会

地域活性化等支援事業一覧

① 河川・道路愛護活動を通じた 地域活性化活動支援事業

河川愛護活動
白川の清流と緑を護る会

河川愛護活動
小島校区まちづくり委員会

P18

② 環境(体験)学習による人材育成活動等 支援事業

鮭稚魚の孵化・育成・放流活動
遠賀川源流サケの会

P18

リバーチャレンジスクール
直方川づくり交流会

P19

アザメの瀬関連事業
特定非営利活動法人アザメの会

P19

ふるさとの水辺を生かす体験学習と人材育成
自然と暮らしを考える研究会

P19

山・川・海をつなぐ自然体験学習及び環境保全活動
特定非営利活動法人 天明水の会

P20

乙津川水辺の楽校事業
乙津川水辺の楽校運営協議会

ラブリバー団体支援事業
始良川河川愛護会

ZOOM UP P20

川を体験する諸活動
こうやま 川の少年団

魅力あるふる里の川づくり事業
赤江未来の会

P20

③ 河川・道路等の愛護活動支援事業

不知火公民館国道208号
道路愛護・地域活性化等活動
不知火町公民館

地域活性化等支援事業
けやき通り発展期成会

国道208号道路愛護・地域活性化等活動事業
4町内環境美化委員会

大牟田市民憲章推進委員会国道208号
街路美化事業
大牟田市民憲章推進委員会

ボランティア・サポート・プログラム
久大生コン内環境美化委員会

ボランティア・サポート・プログラム
吉井コスモス街道

P21

花木植栽(花もも)及び維持管理の活動
浮羽バイパスフルーツロード保全会

地域活性化支援事業
ごみゼロ青春探検隊いとしま

ボランティア・サポート・プログラム
たんぼほの会

P21

浄真昭和町公民館国道208号
道路愛護・地域活性化活動
浄真昭和町公民館

ローズ・マリーの会 ふれあい花壇づくり
ローズ・マリーの会

ボランティア・サポート・プログラム
野多目大橋花クラブ

ボランティア・サポート・プログラム
双葉工業株式会社

ボランティア・サポート・プログラム
川原町老人クラブ

ボランティア・サポート・プログラム
大和ハウス工業株式会社ボランティア活動の会

国道208号道路愛護・地域活性化活動
道守おおむたネットワーク

福国・橋守マイスター会活動
福国・橋守マイスター会

町内美化活動・花植栽
高坊二丁目南町内会

国道201号見立入口交差点及び周辺の
美化と清掃活動
松和会

一般国道10号小倉南区湯川新町地区
花壇の管理道路美化清掃
花と緑の会

国道3号沿い他清掃及び除草
(株)九州緑化建設

門司港地域における環境美化、整備、維持、管理活動
NPO法人 門司港レトロ花の会

美化・清掃活動
株式会社 田舎暮らし

道路愛護(花の苗)
多久市そうじの会

道路愛護
環境を守る会

道路清掃及び美化活動を目的とした
地域女性活動の活性化事業
江北町女性ネットワークの会

ボランティア長崎
ロード・スターズ

ボランティア活動(国道緑化、清掃活動)
潮見小学校区町内連絡会

ボランティア活動(清掃)
共新電設工業株式会社

ボランティア活動(清掃)事業
クローバー・ロード清掃隊

ボランティア長崎
九州ガス株式会社 大村支店

ボランティア活動(国道緑化、清掃活動)事業
天満スマイルクラブ

ボランティア長崎
竹友会

ボランティア活動(清掃)
クリーン&グリーン推進隊

ボランティア・サポート・プログラム
208号清掃、花壇管理事業
玉東町 町区会

P21

ボランティア・サポート・プログラム
道守県央会議

ボランティア・サポート・プログラム
稲佐地区会

ボランティア・サポート・プログラム
道守県北会議

ボランティア・サポート・プログラム
道守県南会議

道路の愛護活動事業(環境美化運動)
大津町商工会女性部

ボランティア・サポート・プログラム
八嘉校区まちづくり委員会

一般国道10号 歩道清掃
豊友会

国道10号 別大国道清掃美化活動
生石港町 港友会

国道10号 道守花壇(別府市上人ヶ浜)活動
別府市上人ヶ浜町自治会

国道10号 西生石 道路清掃・美化活動
西生石自治会

菅生ごみ0大作戦
竹田市立菅生小学校

ボランティア・サポート・プログラム
株式会社くらこん 九州工場

ボランティア・サポート・プログラム
旭建設株式会社

ボランティア・サポート・プログラム
都城市市役所10号線通り会②

ボランティア・サポート・プログラム
内海地区自治会・公民館

ボランティア・サポート・プログラム
日南海岸コバノセンナを育てる会

ボランティア・サポート・プログラム
日南チョウザメ養殖場株式会社

ボランティア・サポート・プログラム
富士区

ボランティア・サポート・プログラム
鵜戸山をかつしやる協議会

P22

ボランティア・サポート・プログラム
社会福祉法人 つよし会つよし学園成人部

ボランティア・サポート・プログラム
小吹毛井区福祉推進会

ボランティア・サポート・プログラム
日南市立鵜戸小中学校

ボランティア・サポート・プログラム
大黒グループ

ボランティア・サポート・プログラム
小目井花いっぱいし隊

ボランティア・サポート・プログラム
宮浦220号線花の愛好会

ボランティア・サポート・プログラム
宮崎日南生活ロード女性の会

ボランティア・サポート・プログラム
霧島会

ボランティア・サポート・プログラム
島山花いっぱい地域づくりの会

ボランティア・サポート・プログラム
新上橋電車通り会

ボランティア・サポート・プログラム
草牟田通り会

ボランティア・サポート・プログラム
栄門通り会

ボランティア・サポート・プログラム
北牟草牟田通り会

ボランティア・サポート・プログラム
伊敷町通り会

ボランティア・サポート・プログラム
鹿児島市立河頭中学校

ボランティア・サポート・プログラム
平山お達者レディースクラブ

ボランティア・サポート・プログラム
旧市花壇サポートクラブ

ボランティア・サポート・プログラム
喜入まちづくりグループ

ボランティア・サポート・プログラム
特定非営利法人 How to 21 Club

ボランティア・サポート・プログラム
麦生田西区自治会

ボランティア・サポート・プログラム
日置市高齢者クラブ連合会 共進クラブ

ボランティア・サポート・プログラム
河頭町内会

ボランティア・サポート・プログラム
株式会社 アルファー

ボランティア・サポート・プログラム
郷之原夢楽づくり協議会

ボランティア・サポート・プログラム
札元商工親睦会

ボランティア・サポート・プログラム
柁原地区振興会

P22

国道220号垂水荒崎パーキング清掃他活動
たるみず折鶴

本明川河川敷の除草・清掃・コスモスの植栽
本明川をきれいにしゅう会

P22

本明川河川敷における環境保全活動(花の植栽)
黒崎干陸地を守る会

花いっぱい活動及び清掃活動
津留地区ふるさとづくり運動推進協議会

本明川河川敷における花の植栽事業
特定非営利活動法人 拓生会

球磨川ヤギーズ除草隊
ノマティック トライプス

花線柳河原川クリーン作戦
花線自治公民館

4 地域資源の活用による地域活性化活動
支援事業

日本風景街道・豊の国歴史ロマン街道
豊の国風景街道推進協議会

令和2年度 街道遺産発見ウォーク事業
「歩く唐津街道の旅」
玄海灘風景街道パートナーシップ推進会議

日本風景街道「島原半島うみやま街道」推進事業
島原半島うみやま街道推進協議会

P23

美しい風景づくり
九州風景街道「阿蘇くまもと路」

サイクル観光連携事業
日本風景街道別府湾岸・国東半島
海への道推進協議会

ZOOM UP P23

日本風景街道「九州横断の道やまなみハイウェイ」
九州横断の道やまなみハイウェイ協議会

令和2年度 日豊海岸
浦あるぎ環境整備&下阿蘇海岸景観保全事業
日豊海岸シーニック・ハイウェイ研究会

かごしま風景街道周知啓発活動
かごしま風景街道

日本風景街道「ながさきサンセットロード」推進事業
ながさきサンセットロード振興会

他地域連携による周遊ルート活用モデル事業
唐津街道むなかた推進協議会

令和2年度 薩摩よりみち風景街道観光客受入事業
薩摩よりみち風景街道協議会

P23

公益目的事業報告書

発行日／令和3年4月

発行者／一般社団法人 九州地域づくり協会

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目5-19(サンライフ第3ビル4F)

TEL(092)481-3781 FAX(092)481-3785

<http://www.qscpua.or.jp/>

※注：新阿蘇大橋は、平成28年4月16日、熊本地震本震の発生により崩落した阿蘇大橋の架け替えとして、元の橋より黒川の約600m下流に架設されており、平成28年11月に工事用道路工事に着手し、令和3年3月に完成しています。